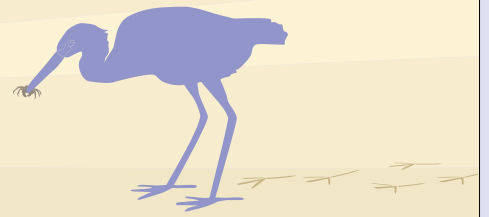


なぎさ NEWS



台風明けの「西なぎさ」には

8月10日に「西なぎさ」で地曳網調査を行いました。ちょうど台風が通り過ぎた後で、まさに台風一過、強風とギラギラ陽射しが照りつける晴天の中での調査となりました。夏休みの「西なぎさ」は、数年前から海水浴体験が実施されていますが、「西なぎさ」には毒のある尾棘をもつアカエイも生息しているため、この時期は安全のためにアカエイよけのネットが張られています。ネットは他の生き物の出入りにも影響があると考えられるため、調査はネットの外側で行いました。まだまだ風の強かったこの日は、網が風にあおられてしまいなかなか思い通りに曳けませんでした。やっとの思いで曳いた網の中には、淡水魚のハクレンの姿も見られました。また、この時期によく見られるエドハゼが少なかったことや、あまりかからないクサフグが見つかるなど、例年とは異なる結果となりました。これが全て台風の影響か、あるいは他に原因があるのか、それを調べることは難しいですが、自然相手の調査は想定通りにいかないことが多く、思いがけない発見もあり、興味が尽きません。



風にあおられ舞い上がる網

(飼育展示係 幅 祥太)

「西なぎさ」に流れついた生き物たち

8月10日の午前中、「西なぎさ」で生き物調査を行いました。この時期は海水浴もできるようになっているので、多くの方が訪れていました。調査では活動している生き物以外に、漂着する生き物の記録も取っています。いつも漂着しているのはミズクラゲです。クラゲは動いて泳ぎますが、水の流れに逆らうほどの遊泳力はなく、海を漂ってくらしています。「西なぎさ」でも漂着したものや、波打ち際にぷかぷか浮いているものが観察できます。この日は台風の翌日で、さらに海水浴ができるエリアにアカエイよけのネットが設置されていたこともあり、そこに多くのミズクラゲとアカクラゲが漂着していました。また、全長約40cmのボラ、コチのなかまやクロダイなども漂着していました。ボラやコチは干潟のおだまりでも稚魚が採集されることがありますが、このように水際まで行かなくても、「西なぎさ」では生き物を発見して観察することができます。また漂着する生き物には、普段あまり観察できないようなものがあることもあります。みなさんも「西なぎさ」で漂着する生き物探しをしてみたいはいかがでしょう？

(教育普及係 西村 大樹)



ボラ(上)、ミズクラゲとアカクラゲ(下)

なぎさ 生き物ミニ情報

水族園は「西なぎさ」と「東なぎさ」で、さまざまな調査を行っています。今回は、8月に行った地曳網調査と生き物調査の結果をお伝えします。

6月下旬から続く記録的な猛暑や台風の影響にもかかわらず、マハゼの生育やカニのなかまの繁殖は順調だったようです。

8月地曳網調査: 気温 28.0℃、水温 28.0℃。調査ではサツパ、コノシロやマゴチが採集されました。6月の調査と比べると、マハゼのサイズが大きくなり全長 10cm を超える個体も見つかりました。また、波打ち際を見るとミズクラゲやアカクラゲが数多く打ちあがっており、台風の影響が感じられました。

8月生き物調査: 気温 31.1℃、水温 30.8℃。この日もコメツキガニ、オサガニやヤマトオサガニが活発に活動していました。また、繁殖シーズンを迎えていて、抱卵しているオサガニのメスが多数観察されました。干潟のカニのなかまには台風の影響はそれほどなかったようです。カキ礁のおだまりでは、マハゼやトサカギンポの稚魚が観察できました。